

Japan International Education Society



日本国際教育学会

〈日本国際教育学会創立 30 周年記念〉

第 32 回研究大会

プログラム

2021 年 10 月 9 日(土)・10 日(日)

第 32 回研究大会実行委員会 (北海道教育大学・北海道大学)

開催方法は全プログラムを

完全オンライン開催に変更しました

2021年9月7日

日本国際教育学会第32回研究大会の
完全オンライン開催への変更とご参加の御願い

第32回研究大会実行委員会
実行委員長 玉井康之

日本国際教育学会第32回研究大会が、約1ヶ月後の10月9日・10日に迫って参りました。自由研究発表に際しては、大会を盛り上げるべく、多くの会員の皆様から積極的に自由研究発表のお申込を頂きました。これらを含めた最終プログラムができましたので、お送り致します。

第32回研究大会の開催方式は、公開シンポジウム・総会に関しては、会場・オンラインのハイブリッド方式で行うこととしていました。しかし、すでに新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言の延長が検討され始め、北海道への移動も厳しくなって参りました。このような状況を考慮すると、今大会は、完全オンライン開催方式（ZOOM配信）に変更せざるをえないと判断致しました。せっかく北海道の会場までお越し頂くことを予定されていた会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、御了承いただきますようお願い申し上げます。

なお、参加申込み方法は、これまでと同様です。学会ホームページの専用申込みフォームからお申込み願います。申し込まれた方には後日、ZoomミーティングURL、あるいはミーティングID及びパスコードをお送りします。

オンライン方式は、逆に参加者が場所・距離・時間の制約を超えて参加しやすいメリットもあります。今回の研究大会の内容は、幅広い国際教育実態や共生社会・開発途上国支援・SDGsなど、多彩な国際教育テーマで開催されます。

会員の皆様のご参加はもとより、非会員の方も参加費2000円を支払えば参加できますので、ぜひ国際教育に関心のある団体・知人にも呼びかけて頂ければ幸いです。ポスターも同封しておりますので、構内に掲示して頂ければ幸いです。

学会研究大会に関わる全ての方にこれまでのご支援をお礼申し上げますと共に、改めて研究大会の参加へのご協力をよろしく御願い申し上げます。

I 開催要項

1. 開催日時

2021年10月9日(土) 9:30 ～ 10月10日(日) 11:00

2. 開催方法・会場

新型コロナウイルス感染症拡大状況、緊急事態宣言下による社会情勢により、すべての大会プログラムを完全オンライン開催に変更しました。

最新情報は、必ず事前に学会ホームページもご確認ください。

3. 主催および共催

学会研究大会主催: 日本国際教育学会

なお公開シンポジウムのみ、日本国際教育学会と「北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター」および「北海道大学教育学研究院」との共催となります。

4. 後援

北海道、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道立北方民族博物館、独立行政法人国際協力機構、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター、公益社団法人北海道アイヌ協会、アラスカ姉妹都市(千歳市・帯広市・根室市・紋別市・佐呂間町・天塩町)、北海道国際理解教育研究協議会、北海道新聞社、読売新聞北海道支社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、NHK札幌拠点放送局

5. 大会スケジュール (当日さらに一部変更の可能性もあります)

大会前日：10月8日(金) 17:00~18:30 学会理事会 (オンラインにて実施)

1日目：10月9日(土)

時間	プログラム	実施方法
9:00~9:30	オンライン入室受付：各分科会	
9:30~12:00	自由研究発表 I 第1分科会 第2分科会 第3分科会 第4分科会	オンライン配信のみ(各自で接続をお願いしています。)
12:00~13:00	昼食休憩	
13:00~15:00	課題研究 I 【テーマ「民族共生とアイデンティティ形成」】	オンライン配信のみ(各自で接続をお願いしています。) ※12:30~オンライン入室可
15:15~17:15	公開シンポジウム 【テーマ「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点」】	ハイブリッド オンライン配信のみ(各自で接続をお願いしています。) ※14:45~オンライン入室可
17:30~18:30	総会	ハイブリッド オンライン配信のみ(各自で接続をお願いしています。)
	情報交換会は中止	

2日目：10月10日(日)

時間	プログラム	実施方法
8:30~9:00	オンライン入室受付：各プログラム	
9:00~11:00	・課題研究 II 【テーマ「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」】 ・自由研究発表 II (9:00~10:30) 第5分科会 第6分科会 第7分科会	オンライン配信のみ(各自で接続をお願いしています。) (課題研究 II と自由研究発表 II は、同時間帯実施となります。)

※1 コロナ禍のため、当初のご案内から完全オンライン開催に変更になっています。

※2 大会2日目の課題研究 II と自由研究発表 II (第5~7分科会) は、同じ時間帯に並行実施となります。

※3 オンライン配信は、両日とも開始時刻の30分前からZoomに入室できます。

6. 研究大会参加申込みと期日

大会参加申込みは、日本国際教育学会の専用ホームページから入力してください。また学会会員の方で総会を欠席される方は、同じく学会専用ホームページから、委任状を提出して頂ければ幸いです。

<http://www.jies.gr.jp/>から、10月1日(金)までに入力するとともに、指定口座に参加費をお振り込み願います。(入金確認に1週間かかりますのでお早めをお願いします。)

※会員の皆様には、本大会に興味・関心がある方に、大会要項のPDFを転送して頂くなど、是非広くお声かけをして頂きますようお願い致します。

下記学会ホームページQRコードからアクセスすることも可能です。



学会ホームページ



参加・発表申込フォーム

7. 参加費等

- ①学会大会:2000円(学会員および当日のみ参加者を含めて一律となります。)
- ②公開シンポジウム:公開シンポジウムのみ参加希望の方は無料ですが、参加申し込みは必要です。
(「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点ー」)
- ③参加者は10/1(金)までに事前に郵便口座への振込をお願い致します。参加申込者には、申込時のアドレスに、ZoomミーティングURL、あるいはミーティングID及びパスワードをお知らせ致します。
- ④公費支出で、振り込み時記録用紙に加えて、別途領収書が必要な場合は、実行委員会にご連絡願います。

【振込先】 ゆうちょ銀行

振替口座：19230-1281461

加入者名：学会釧路大会実行委員会 (ガッカイクシロタイカイジッコウイインカイ)

振込金額：2,000円

他金融機関からの振込用口座番号：

店名：九二八 (キュウニハチ) 店番：928

預金種目：普通預金 口座番号：0128146

8. 自由研究発表における留意事項

①発表時間 20 分、質疑応答 10 分で、合計 30 分となります。

②発表時刻および発表順の変更は原則として行いません。やむを得ない事由により発表辞退が発生した場合も同様です。その際は司会者判断により休憩または討論の時間とします。

③当日発表資料の形式は原則自由とします。本大会オンライン開催のプログラムでは、発表者が各自で Google-Drive に 10 月 3 日(日)までにアップして頂き、大会参加者がダウンロードできるようにします。

Google-Drive のアドレスについては、発表者および参加申込み者につきまして、9 月下旬に発送予定の発表要旨集録、Zoom ミーティング URL、あるいはミーティング ID 及びパスワードと一緒に送ります。

9. 公開シンポジウム・総会受付場所

完全オンライン開催に変更しましたので、当日会場はありません。

10. 大会事務局連絡先

日本国際教育学会創立 30 周年記念第 32 回研究大会実行委員会

○大会実行委員会共同メール nihonkokusai32@gmail.com

○大会現地実行委員メール (〒085-8580 釧路市城山 1-15-55 北海道教育大学釧路校)

- ・玉井 康之 tamai.yasuyuki@k.hokkyodai.ac.jp / tamaiyasuyuki@icloud.com
090-4875-3870 (主線) /011-778-0897 (大学)
- ・川前あゆみ kawamae.ayumi@k.hokkyodai.ac.jp
0154-44-3316 (主線・大学) /090-3462-6773 (携帯)
- ・境智洋 sakai.chihiro@k.hokkyodai.ac.jp

○大会現地実行委員メール (〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 7 北海道大学教育学研究院)

- ・Jeffrey Joseph Gayman jeffrey.gayman@imc.hokudai.ac.jp
- ・張 揚 zy-tyouyou@edu.hokudai.ac.jp
011-706-5323 (主線・大学)

オンライン参加者向けの注意事項

本研究大会は Zoom による完全オンライン開催に変更となりました。すべてのプログラムを円滑に進めるために下記のような留意事項をまとめました。参加者の皆様には既知の事柄も多いですが、事前にご一読頂きますようお願い致します。

1. 開催時間前の準備

- (1) できるだけインターネット通信に適した機器を活用し、適宜イヤホン等で補って集中できる環境を整えて下さい（スマートフォンは画面上で扱える情報量に制限がありますのでお勧めしません）。
- (2) 事前に Zoom 公式サイトからできるだけ最新版アプリをダウンロードして利用することをお勧めします。
- (3) 事務局から送られた Zoom ミーティング URL、あるいはミーティング ID 及びパスコードを使って入室して下さい。
- (4) ミーティング URL、ミーティング ID 及びパスコードを他者と共有はできません。
- (5) 入室は各プログラム開始時間の 30 分前から可能です。

2. 開催時間中の操作

- (1) 入室後は、基本的にカメラはオフ、マイクはミュートでお願い致します。質問等で発言する際はカメラとマイクをオンにしてご発言ください。
- (2) ユーザー名（表示名）は識別しやすいように氏名（所属）を表示して下さい。基本的に氏名はカタカナ、所属は漢字等とします。なお、自由研究発表で日本語話者以外の参加者が多い場合は、すべて英字に変更することをお勧めします。
例：ホッカイトロウ（日本国際教育大学）
Hanako Sapporo (Kushiro Ed. University)
- (3) ユーザー名は、メニューバーの「参加者」をクリック⇒参加者リストの自分の表示名にマウスを合わせる⇒「詳細」⇒「名前の変更」によって変更できます。
- (4) 質疑応答の時間ではメニューバーの「リアクション」から「手を挙げる」をクリックして挙手マークを示して頂き、司会者が指名した時にカメラとマイクをオンにしてご発言下さい（終了後に再度、オフ／ミュートにお願いします）。
- (5) 質問等は随時チャットからも受け付けますが、どのように取り上げるかは司会者に委ねますので、必ずしもすべてにコメントできないことがあります。
- (6) 著作権保護の観点から画面撮影、録画、録音、さらにそれらの公開は禁止します。

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ（10月9日（土） 9：30～11：30）

☆第1分科会

司会：服部 美奈（名古屋大学）

[1] 9：30-10：00

ブラジルにおけるシティズンシップ教育の動向

山口アテナ真美（北海道教育大学）

[2] 10：00-10：30

ブータンにおける就学前教育政策の変遷とその特徴

平山 雄大（お茶の水女子大学）

[3] 10：30-11：00

バングラデシュ少数民族生徒の進路形成

田中 志歩（広島大学大学院）

[4] 11：00-11：30

日本と韓国における外国人女性の多様性と政策再構成を中心に

呉 世蓮（早稲田大学（非））

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ（10月9日（土） 9：30～11：30）

☆第2分科会

司会：下田 誠（東京学芸大学）

[5] 9：30-10：00

漢民族の「蔵地遊」にみる教育的相互作用—天葬観光を事例として

銭 艶洋（セン エンヨウ）（北海道大学）

[6] 10：00-10：30

漢族像に関する中国と台湾の歴史教科書の比較

*小川 佳万・石井 佳奈子（広島大学）

[7] 10：30-11：00

中国の義務教育における食育の現状と課題

朱 松松（東京外国語大学大学院）

[8] 11：00-11：30

中国の大都市部における「教育集団化」政策の実施背景と現状

—浙江省杭州市の事例分析を中心に—

張 揚（北海道大学）

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ (10月9日(土) 9:30~12:00)

☆第3分科会

司会：赤尾 勝己 (関西大学)

[9] 9:30-10:00

支援が必要な生徒の包摂と排除に関する考察

—イギリスの中等学校の停・退学に焦点を当てて—

白幡 真紀 (仙台大学)

[10] 10:00-10:30

「移動する子ども」の自己肯定感を醸成する教育環境とは

—シュタイナー学校の生徒の事例から

太田 裕子 (早稲田大学)

[11] 10:30-11:00

在日留学生のアイデンティティーケーススタディー

阿部 恵 (八戸工業高等専門学校)

[12] 11:00-11:30

フィンランドの職業訓練校—OSAO訪問を通して

大谷 杏 (福知山公立大学)

[13] 11:30-12:00

デンマークの実践共同体が若者のキャリア形成に効果を与えるメカニズム

—エフタスコーレにおける社会的相互作用を手がかりに—

森田 佐知子 (高知大学)

II 自由研究発表 I (10月9日(土) 9:30~11:00)

☆第4分科会

司会：石井 由理 (山口大学)

[14] 9:30-10:00

Yi language policy in Liangshan, China: with a focus on influences on language maintenance

Li Wenting (北海道大学教育学院)

[15] 10:00-10:30

The current living situation and problems of marine products industry Chinese technical interns in Hokkaido under the Hokkaido tabunkakyousei society: taking Esashi area as an example

司 昊田 (北海道大学教育学院)

[16] 10:30-11:00

Teacher Education in Cambodia: Challenges and Government's Intervention Policies and Action Plans

Koemhong SOL (International Christian University)

Ⅲ 課題研究Ⅰ（10月9日（土） 13:00～15:00）

「民族共生とアイデンティティ形成」

〈司会〉 森下一成（東京未来大学）

〈報告者〉

〔1〕 栗田梨津子（神奈川大学）

「アボリジナルのアイデンティティ形成の問題」

〔2〕 新関ヴァッド郁代（産業能率大学）

「インド少数民族・モンパ族の教育と民族アイデンティティにおける課題」

〔3〕 森下一成（東京未来大学）

「琉球・沖縄のアイデンティティ 祈りをめぐる諸相」

趣旨

近代以降に見られる国民国家（Nation State）への志向は、教育基本法において「教育は、（略）国民の育成を期して行われなければならない（1条）」と明文化されるように、国家の主要な任務の1つに公教育における「国民」の育成を数えるようになった。国民としてのアイデンティティ形成を公教育に求める一方で、多民族国家カナダは少数民族の民族としての教育の権利を憲法レベルで保障し、あるいはオーストラリアをはじめとするいくつかの国のように、多文化主義政策を公教育に反映させる例も少なからず見受けられる。こうした社会的背景もあって、国民国家における国民の育成という公教育の目的は、制度設計当初は想定し得なかった他国人あるいは他民族の存在とそのアイデンティティ形成への希求の間にあるとあって、調整を余儀なくされていると述べても過言ではない。

国民としてのアイデンティティの形成、それ以外を公教育に容れぬ時代は過ぎ去り、民族としてのアイデンティティの形成をも公教育に容れることの是非が問われるパラダイム・シフトの起こりが垣間見える。それは、単に制度設計だけでなく、多文化の共生をコミュニティへ容れるシチズンシップの醸成を公教育の内容とすることも当然含まれる。東京オリンピック・パラリンピック開催で世界中の人びとが来日する本年、国民として、あるいは民族としてのアイデンティティ形成をシンポジウムのテーマの1つとすることの意義は少なくない。

本課題研究では以上のような社会的背景を踏まえて、国民国家におけるマイノリティの置かれた状況について3つの事例報告を受ける。栗田梨津子会員からはアボリジナルのアイデンティティ形成の問題について、新関ヴァッド会員からはインドにおける少数民族が抱える教育問題について、森下一成会員からは日本における「沖縄」のアイデンティティについて、それぞれマイノリティによる民族としてのアイデンティティ形成に関する現状と課題を明らかにし、国際教育学の方法を考える上での議論の出発点とすることを目的としたい。

IV 公開シンポジウム（10月9日（土） 15：15～17：15）

「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点ー」

〈司会〉

牛渡 淳（仙台白百合女子大学） 境 智洋（北海道教育大学）

〈報告者〉

- [1] 伊藤太陽（Center for Human Development, University of Alaska Anchorage）
「アラスカ先住民族教育の歴史から考える民族共生」
- [2] Jeffrey Joseph Gayman（北海道大学）
「北海道に生かすアラスカの先住民族共生活動の理念と実践」
- [3] 玉井康之（北海道教育大学）
「先住民族教育関係者の合意形成と共生社会化ーアラスカの先進性に学ぶ」

〈指定発言〉

岩崎久和（元アラスカ州アンカレッジ市立サンドレイク小学校教諭
・元在アンカレッジ日本国総領事館職員）
「アラスカの小学校現場から見た共生社会」

趣旨

本シンポジウムでは、アラスカ出身の在北海道研究者と北海道・日本のアラスカ研究者が、相互の立場からアラスカの先住民族との共生社会に向けた先進的な取り組みをとらえることで、アラスカと北海道の結節点を明らかにしたい。またこれにより、民族共生社会に向けた先住民族政策と教育の新たな可能性を指し示していきたい。

アラスカ州は、住民の4分の1が先住民族であり、また極寒の北方圏に位置していたために、開拓者である白人が先住民族の生活様式を取り入れてきた。また歴史が浅く、旧ロシア領を買い取ったアラスカ州は、南部48州の開拓の反省も含めて先住民族を尊重する政策がとられてきた。この様な歴史的経緯もあって、白人開拓者が先住民族を排除するだけでなく、先住民族と一定程度共生してきた文化がある。このためアラスカ州政府も先住民族との共生政策を推進し、また教育政策においても先住民族を理解する教育活動が進められた。

アラスカ州では先住民族と教育関係者が共同で「アラスカスタンダード」を作成して行動規範を推奨した。またアラスカ州での教員資格としてアラスカスタディを義務化するなど、独自の・先進的な施策を進め、民族共生の視点に基づいた先住民族政策の先進的モデルを見せている。

本シンポジウムでは、アラスカ州の歴史的・文化的背景を踏まえながら、このアラスカ州の共生社会政策と教育活動の特徴や課題を明らかにし、以て日本と北海道のこれからの先住民族研究の一つの方向性を指し示していきたい。

V 総会・情報交換会

総 会

2021年10月9日（土）

時間：17：30～18：30

場所：オンライン開催

情報交換会

- ・コロナ禍により中止

VI 課題研究Ⅱ（10月10日（日） 9:00～11:00）

「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」

〈司会〉

白幡真紀（仙台大学）

〈報告者〉

〔1〕 川前あゆみ（北海道教育大学）

「開発途上国と日本のへき地教育の国際教育貢献の役割」

〔2〕 小野豪大（ジモノ工房プロジェクト・北海道教育大学非常勤講師）

「ラオスにおける教育改善の実践と国際教育貢献」

〔3〕 佐藤秀樹（公益社団法人青年海外協力協会・桐蔭横浜大学非常勤講師）

「SDGsと教育開発—“JICA地球ひろば”の実践から」

趣旨

本課題研究では、開発途上国と日本との国際協力関係を通してSDGs（Sustainable Development Goals）の具体的な実施のあり方を模索する。多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には17の目標と169のターゲットから成る「持続可能な開発目標（SDGs）」が示されている。そこで、日本が開発途上国において紹介可能な教育実践例を取り上げ、実践現場の具体的な取り組みに即してSDGsを考えてみたい。開発途上国の中には日本の教育プログラムに強い関心を寄せているところも多いが、日本から見た開発途上国支援と、開発途上国から日本に期待する教育技術や教育内容が相互に融合することはSDGsの実施やパートナーシップの持続性にとって重要である。このような関係性があって初めて日本のSDGsの実践がより有効なものとなっていくのではないかと。

このような課題認識から、本課題研究では開発途上国と日本の国際協力関係の実践的なあり方をとらえつつ、SDGsの今後の展開のあり方と条件を検討してみたい。

VII 自由研究発表Ⅱ (10月10日(日) 9:00~10:30)

第5分科会

司会：岩崎正吾（首都大学東京（現：東京都立大学）名誉教授）

[17] 9:00-9:30

独立期西アフリカにおける教育改革 —教育格差との史的連関に着目して—

谷口 利律（早稲田大学）

[18] 9:30-10:00

教育ガバナンスにおける「社会力量」に対する政府の意識や施策変遷に関する一考察

劉 琦（早稲田大学大学院）

[19] 10:00-10:30

国際教育研究におけるビデオ会議システムを利用したデータ収集の考察：
Zoomによる個別インタビューの事例

斎藤 翼（ブリティッシュコロンビア大学大学院）

VII 自由研究発表Ⅱ (10月10日(日) 9:00~10:30)

第6分科会

司会：田中 達也 (釧路公立大学)

[20] 9:00-9:30

SDGsを意識した小学校における国際教育の実践

—教科横断的な学びを生かして—

土屋 京子 (千葉市立新宿小学校 (千葉大学教職大学院))

[21] 9:30-10:00

多文化社会における教師の共通言語構築力

松岡 洋子 (岩手大学)

[22] 10:00-10:30

仏領期カンボジアにおける文化政策と宮廷舞踊の学校化

羽谷 沙織 (立命館大学)

VII 自由研究発表Ⅱ (10月10日(日) 9:00~10:30)

第7分科会

司会 : Jeffry Joseph Gayman (北海道大学)

[23] 9:00-9:30

Transformation of the Mongolian world from the integration and separation of Mongolian language

Aruhan Bai (北海道大学)

[24] 9:30-10:00

What did Asian developing countries learn from Japan's ECCE through an international training program?

Chiaki Miwa (Hiroshima University)

[25] 10:00-10:30

Ancient wisdom pedagogy in the modern classroom

Zane M. Diamond (Monash University)

日本国際教育学会創立 30 周年記念 第 32 回研究大会実行委員会

実行委員長 玉井 康之（北海道教育大学）

事務局長 川前あゆみ（北海道教育大学）

実行委員 Jeffrey Joseph Gayman（北海道大学）

張 揚（北海道大学）

境 智洋（北海道教育大学）

[実行委員会事務局連絡先]

〒085-8580 釧路市城山 1-15-55 北海道教育大学釧路校

大会実行委員会共同メール nihonkokusai32@gmail.com